



# 緑小だより

板橋区立緑小学校  
5月号 (No.569)  
令和7年4月30日

## 新年度1ヶ月が過ぎて

校長 市之瀬 輝明

校庭の木々は今、新緑が鮮やかで、まぶしいくらいです。新学期も1ヶ月過ぎ、子どもたちもそれぞれの学年で落ち着いた生活を送っています。特に高学年は、学校生活の全体のリーダーとして意欲的に仕事に取り組んでいる様子が見られます。緑小学校の高学年になったら頑張るのが当たり前なのだという気風が出来上がっていることを頼もしく思っています。小学校で6年間過ごしていく中でそれぞれの学年が受け持っている仕事があります。それを一つ一つ積み重ねていく中で子どもたちは力を付けていきます。6年間のつながりを考えて教育活動を行っていくというのが今年度の緑小学校のテーマのひとつです。

緑小学校の学力向上の取り組みの一つである「朝学習」における全学年【東京ベーシックドリル】【すららドリル】・低学年【MIM】中学年【俳句】高学年【NIE(新聞活用学習)】についても今年度、6年間の学習をつなげていくという視点からもう一度見直し、具体的な実践を模索していきます。

また、本校の教育目標のひとつに「健康でたくましい子」を掲げています。たくましい子を育てるために、さまざまな取組を行っています。具体的には「体育の授業の質的充実を図る」「継続的に運動する機会を設定する(1校1取組)」「食育を充実させる」「保健指導を充実させる」「安全指導を充実させる」「精神的なたくましさを育てる」等です。「健康でたくましい子」を目指していくためには、まずは健康で休まずに登校することが大切です。『早寝 早起き 朝ご飯』を是非実行し、元気に登校してほしいと思います。ご家庭でも、お子さんの体調や心の変化など、健康管理には十分気を付けて頂きたくどうぞよろしくお願ひします。

本校のプール横に板橋区立小学校では唯一の竹林があります。4年生が毎年、サンシティグリーンボランティアのご協力をいただきながら【タケノコ掘り】を行っています。『竹のように』という詩を紹介させていただきます。

竹のように  
のびろ のびろ  
まっすぐ のびろ  
竹のように のびろ  
風をうけて さらさらと鳴れよ  
日をうけて きらきらと光れよ  
雨をうけたら じつとしてろ  
雪がつもれば いっそう こらえろ  
石をなげつけられたら  
かちんとひびけ  
ぐんぐん 根を張れ  
土の中で その手とその手を  
がんじがらめに握りあえ  
竹 竹 竹のように  
のびろ  
五月のみどりよ もえあがれ





4年生になって初めての行事、たけのこ掘りを行いました。緑小学校には、プールの隣に竹林があります。春になるとたけのこが顔を出し、収穫することができます。サンシティグリーンボランティアのみなさんに、たけのこの収穫の仕方を教わりました。

竹林の中に入ると、子どもたちは盛り上がっている土をすぐに発見し、夢中でたけのこを掘っていました。みんなで協力してたけのこを見付け、周りの土をシャベルで削り、たけのこの根元を傷つけないように気を付けながら掘りました。採れたたけのこを子どもたちが「先生！採れました！」、「先生！こんなに大きいのが採れました！」と嬉しそうに報告してくれました。採れたたけのこは、お家に持って帰りました。

たけのこ掘りでの体験の数日後には図工の学習でデッサンを行い、さらに学習を広げることができました。また先日の給食で出たたけのこごはんを思い出していました。



## 生活指導部から

自転車を安全に乗るために【ヘルメットの着用について】

令和5年4月1日から、改正道路交通法が施行され、自転車利用時のヘルメット着用が努力義務化されました。警視庁によれば、自転車に乗る際は、大人も子どももヘルメットの着用が求められることとなっています。特に、お子様が自転車に乗る場合には、保護者の皆様がヘルメットの着用を確実に行うよう努めていただくことが重要です。

自転車事故の具体的な例としては、2023年秋、見通しの悪い交差点を自転車で通過中の小学生が右から来た車と衝突し、大怪我を負う事故がありました。この小学生はヘルメットを着用しておらず、頭部に重傷を負いました。事故調査によると、ヘルメットを着用していれば、重傷を避けることができた可能性が高かったと指摘されています。

このように、ヘルメットは頭部を保護し、重大な怪我を防ぐための非常に重要なアイテムです。ヘルメット着用のデータでも、非着用時の致死率が着用時と比較して約2.3倍も高くなっていることが確認されています。

自転車は子どもたちにとって便利で楽しい乗り物ですが、安全第一で利用するためには、適切な安全対策が必須です。保護者の皆様には、日頃からお子様にヘルメットの着用を徹底していただき、安全に配慮した自転車利用を心がけていただけますよう、お願い申し上げます。

生活指導主任

## なわの日

今年度も、子どもたちの体力と学級の連帯感の向上をねらいとし、月に1日を「なわの日」として、長縄運動を行います。その日の中休みの後半は、各学級2グループに分け、長縄で8の字跳びの記録に挑戦します。学級対抗ではなく、各学級での記録を伸ばすことをねらいとします。この1年でどれだけ記録を向上できるか、友達と力を合わせて、がんばってほしいと思います。



## 開校記念日（創立47周年）

25日(日)は、緑小学校の開校記念日です。緑小の子どもであることに自信と誇りをもって、勉学に励んでほしいと願っています。



### 校名の由来

明治・大正の初期、本校周辺はうっそうと茂った森林と緑豊かな丘陵地帯に田畑が点在していました。

現在の緑小学校は、東の丘と西の丘から流れ出る小川の合流点の低地で、葦・芦の生えた沼地でした。

この地は、大正8年頃から「東京ガス電気 K・K」を経て、「東京火薬工業 K・K」に買収され、戦時中は火薬を製造していました。

その後会社は「日本チッソ」「旭ベンベルグ絹糸」とも合併して大きくなりましたが、昭和21年4月、現在の「旭化成」という社名になり、この地は「旭化成東京研究所」となりました。本校敷地は、社員レクリエーションの場として、一周400mの陸上競技ができるグラウンドとなりました。

昭和46年、国道201号線、高速道路5号線の建設計画の発表があり、旭化成の敷地は、この道路によって分断され、旭化成東京研究所は富士に移転しました。

その跡地の開発研究を、昭和47年、三井不動産、旭化成、三旭都市開発が引き受けました。その条件として、国・板橋区から“緑の原生林を保存した土地利用”を依頼・要望されました。従って、このサンシティの宅地開発には、すべての緑を残すことが配慮され、さらに緑豊かな教育の場としての学校環境のため、いろいろな努力が払われました。

この学校を「緑小学校」と命名した由来はここにあり、将来に向かっての発展が期待されています。

(「創立40周年記念誌 わたしたちの緑小」より)

### 校章の由来

本校のシンボルの木は、校門の両側に植えられていた「椎の木」です。現在は、40周年のときに植樹された椎の木がジャングルジムのとなりにあります。校章決定にあたって、この椎の木と緑小の「緑」をアレンジした図案を条件に、広く児童・教職員より作品を集めました。その結果、4年生の岸秀信さんの作品をもとに、福田安夫校長が構成構図されたものです。4枚の椎の葉の中に緑の文字を描き、中心に小学校の「小」がくっきり書かれています。これは、椎の木のように年中青々とした葉をしげらせ、四方八方に根をはる本校の生生発展の姿を表象しています。



(「創立40周年記念誌 わたしたちの緑小」より一部抜粋)